

## 盲ろう者向け通訳・介助員現任研修を開催しました

11月26日(日)高知市障害者福祉センターで通訳・介助員現任研修を開催しました。講師には兵庫盲ろう者友の会副理事長井上智文さん、ひょうご盲ろう者支援センター派遣コーディネーター中村千鶴子さん、兵庫盲ろう者友の会事務局横田知華乃さんをお招きしました。

### 1. 講演



写真1 手話で講演する井上さん

午前の講演はオープン参加で行いました。行政からも参加いただき「ひょうご盲ろう者支援センター設立の歩み」についてお聞きしました。

### 井上さんの生い立ち



写真2 パソコンを使って講演する井上さん

井上智文さんは、先天性の聴覚障害。10歳の時に網膜色素変性症の診断を受けました。弱視(視野狭窄)のある盲ろう者です。視力が落ちたことをきっかけに仕事を辞めました。盲ろうという現実を受け入れることはなかなかできず、白杖を持つことを拒んだ時期もありました。白内障もあり、眩しさを軽減するため黒のサンバイザーを被っています。

### 兵庫盲ろう者友の会

井上さんが副理事長を務める兵庫盲ろう者友の会は、正会員35名(盲ろう者のみ)と賛助会員を合わせて200名。派遣利用登録をしている盲ろう者は52名。

### 「ひょうご盲ろう者支援センター」

優しくて覚えやすいという理由でひらがなに決めた「ひょうご盲ろう者支援センター」。皆さんの想いが詰まっています。日本で3番目の開所。民間運営の施設です。1番目の大阪、視聴覚二重障害者福祉センター「すまいる」は就労継続支援事業B型としての運営。2番目の「東京都盲ろう者支援センター」は都の運営。兵庫は、友の会がNPO法人となり、運営する形を選択しました。そうすることで、カフェ経営や物品販売などを行うことができます。今年12月23日にカフェをオープンするために営業許可をとりました。

県からの助成を受けながら民間運営を始めた「ひょうご盲ろう者支援センター」では、さまざまな事業や勉

強会、研修や交流会が開催されています。支援センター開所に合わせて、派遣事業などが聴覚障害者情報センターから支援センターへ移管されました。盲ろう者向けの通訳介助員派遣、養成講座、相談、研修、生活訓練、パソコン講座などの事業を行っています。一方、同行援護の事業所の運営や会報誌「夢ふうせん」の発行、発送作業(盲ろう者が担当)、コミュニケーション研修会やランチ会、リボンの会(就労支援)、さきおり会(布地を裂いて織った織物でグッズなどを作る)などの活動も盛んです。また、指点字サークル、盲ろう児との交流会、夏休み盲ろう体験(子ども対象)など多くのイベントを開催しています。

支援センターがオープンして1年



写真3 質問に答える井上さん

正直に言うと運営はとても厳しいです。しかし、県や議員から頑張ってもらいたいと激励が届きます。何より、盲ろうの相談件数が増えるなど、これまでは難しかった盲ろう者の掘り起こしにつながる動きが拡がり始めています。最後に言いたいことは、活動は、決して一人だけではできません。大切なのは盲ろう者とスタッフ、支援者みんなで相談しながら意見を出し合い進めていくことです。

高知のみなさんもNPO法人を設立して、ぜひ、友の会運営の支援センターを作ってください。そして、開所の時はぜひまた私を呼んでください(大笑い)

## 講演の感想

「引きこもっている人たちに必要な訓練を受けてもらいたい」

「自立した生活がおくれるように支援したい」

「盲ろう者が気軽に集える施設が欲しい」

ひょうご盲ろう者支援センターは、井上さんたちの想いがいっぱいあふれている盲ろう者の居場所なんですね。近い将来、井上さんを高知の式典にご招待できる日がくることを願いながら、高知も頑張らなければと思いました。(渡辺)

## 2. 実習



写真4 触手話について個別にアドバイスする井上さん

午後は触手話の実習を行いました。

「手に汗握るとはこのことや…」そんなつぶやきが聞こえる会場で ドキドキドキ…スタート。

### 「触手話」についての注意点

- 距離感を大切にする
- 手話の大きさや速さも大切
- 肩や腕に力を入れ過ぎない
- 身体に触れると不快があるので触れないように…
- 手や指の形ははっきりと
- 名前は指文字や手書きもつかって正しく伝える
- 本当に正しく伝わっているのかその都度確かめ考える
- 話し始めたら 手を離さない
- 盲ろう者の表情を確認しながら視線を外さない
- 離れるときは必ず伝える
- あいづち、うなずきのサインを相談して決めておく
- 沈黙をつくらないこと。状況説明を忘れずする

### 井上さん、中村さん、横田さんからのアドバイス

- 単語で区切るとわかりやすい
- 頷きの合図を盲ろう者とともに決めておく
- 分からないとき別の方法(指文字や手書きなど)を考える
- 通じるような特徴などを把握する
- 力が入りすぎると伝わりにく
- 爪が当たると痛いので注意してほしい
- オーバーアクションになるとわからないので、やり方を工夫する



写真5 触手話でコミュニケーションする井上さんと高橋会長